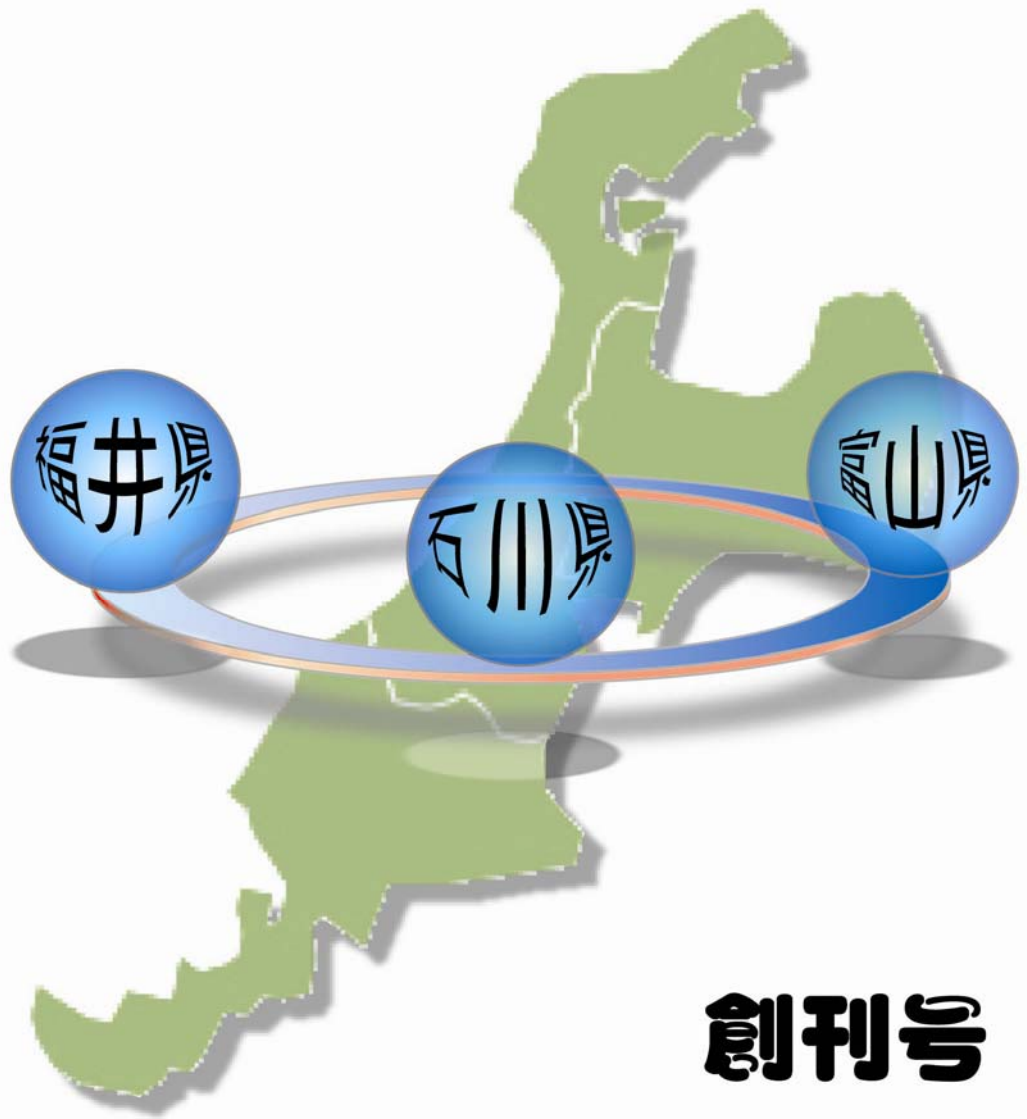


懇談会会報



北陸技術士懇談会

【事務局】	㈱日本海コンサルタント 内	〒921-8042	金沢市泉本町2丁目126番地	TEL 076-243-8258
【石川事務所】	㈱ホクコク地水 内	〒921-8021	金沢市御影町25-1番地	TEL 076-241-7158
【福井事務所】	環水工房(有) 内	〒910-0147	福井市森田町9丁目2-2番地	TEL 0776-67-7770
【富山事務所】	㈱アーキジオ 内	〒933-0824	高岡市西藤平蔵581番地	TEL 0766-63-8852

目 次

1. はじめに
2. 平成 25 年度総会・特別講演会報告
3. 平成 25 年度技術研修会報告
4. 平成 25 年度講演会報告
5. 平成 25 年度合格祝賀会報告
6. 平成 25 年度役員名簿
7. 平成 26 年度行事予定 (案)

1. はじめに

日頃から北陸技術士懇談会の活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

本会の歴史は古く、昭和 45 年頃から富山、石川、福井 3 県の技術士仲間の任意団体として和気あいあいと活動を続けてきました。発足当初は 20～30 名程度の運営でしたが、現在は会員数約 1800 名、正会員数（会費納入者）550 名を有する巨大な組織になっています。

このような歴史のある大きな組織にも関わらず、現在まで会報等が発行されておられません。以前から、会員の皆様方に会の活動報告を的確に伝達すると共に、会員相互の情報交換の場として幅広く活用して頂ける会報が必要だとの意見が多数寄せられておりました。今回、役員会で審議を諮ったところ会報が必要であるとのことで、創刊号（会報）が発刊される運びとなりました。

技術士資格は他の資格と違い、産業経済や社会生活の科学技術に関するほぼ全ての分野（電気、機械、建設など 21 技術部門）をカバーし、先進的な活動から身近な生活にまで関わっている特徴があります。このような幅広い分野の専門技術者集団ですが、一般の方々に対する知名度が低いうえ、技術者間の繋がりも比較的疎遠であるといわれております。

近年、産学官共同や異業種間交流が叫ばれていますが、このような多数の異業種技術者で構成する組織は多くありません。本会の広い分野の人脈を通じて、地域社会ひいては国際社会への貢献による社会的信頼と地位の向上に寄与することが可能であると考えられます。

会員間相互の親睦や技術の向上を図ることはもとより、本会を通じて幅広い分野の人脈を形成し、I 型技術者からグローバル社会が求める「幅広い知識を基盤とした高い専門性を有する T 型技術者」の形成の場にして頂きたいと思っております。

このような場を提供するため、現在組織改編を考えております。会の発展と運営を円滑に推進するため、各県理事 8 名体制（事業委員を廃止）とし、役割分担を明確にした総務、業務委員会等 4 委員会を設け、試験的に展開しております。最終的には本年度総会の議決を経て新組織でスタートする予定となっておりますので、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。（会長 有澤 良一）

2. 平成 25 年度総会・特別講演会報告

北陸技術士懇談会の総会・特別講演会が、平成 25 年 6 月 1 日（土）、ANA クラウンズプラザホテルヴィサージュビル会議室で行われ、40 数名の参加者がありました。今までは、総会見学会として実施してきましたが、諸般の事情により、今回から石川県で総会と特別講演会をセットとして実施することになりました。

■総会

総会議事は①平成 24 年度決算②平成 25 年度予算③平成 25 年度年間スケジュール④役員改選と進められ、いずれも原案通り可決されました（新役員：有澤会長、今度副会長、辰橋理事、屋敷相談役、佐々井事業委員）。



5 年間、本会の運営のためにご尽力されました屋敷会長は今回でご退任されます。今後、日本技術士会とも連携し、双方ががんばっていかねばいけないと挨拶をされました。今後も相談役ということで関わられます。

最後に女性部会活動報告があり、現在、本会で把握している北陸 3 県の女性技術士は 22 名だそうで、今後の増加に期待しています。

講演に先立ち新役員の紹介の後、有澤新会長より挨拶があり、本会が益々発展するように尽力していくのでよろしくお願ひしたいとのことでした。



■特別講演会

講演 1：「和風ソーシャルビジネスのあり方」

田村 裕美講師（一般社団法人ソーシャルテクニカ代表理事）



●土木技術者から環境技術者へ

田村氏は、建設コンサルタント時代に最終処分場の調整池の排水設計に関わられた際、近年の降水量の増加から、気候変動に危機感を覚えた。それをきっかけに温暖化防止の仕事がしたいと考え、フリーエンジニアを経て、エスコ事業、エネルギー合理化、バイオマス発電関連事業に、環境技術者として携わってきた。

また、カーボンマネジメントアカデミー（内閣府雇用創造事業）をプロポーザルで受注した後、担当責任者として2年間にわたって1,800人の受講生にエネルギーの学習会を開催した。

●日本技術士会での活動と女性技術者

田村氏は、青年技術士交流実行委員会で初めての女性委員長を務め、組織運営や国際交流活動に加え、青年技術士委員会50周年記念誌もまとめた。

様々な国際交流の際には、日本の女性技術者が少ないことを実感している。

女性技術者に期待することとして、多様性（女性ならではの視点、感覚）、ブランディング（自分の個性を理解し、価値を見える化）、ライバル（いずれ女性技術者同士もライバルになる）などが挙げられる。

また、北陸で活躍している環境リーダーとしては「萩のゆき・まるやま組」や「金沢大学の平山奈央子氏」が挙げられる。

●ドイツ環境リーダー海外研修

海外研修参加の経験の一つとして、セブンイレブン記念財団のドイツ環境リーダーとして参加したが、連日のディスカッションとレポート提出があり、非常に厳しい研修だった。

ドイツには自販機とコンビニがないなど、ゴミ排出を少なくするようになってきている。若い女性でも気にせず穴のあいた手袋をしているなど、物を大切に扱う意識が強いことが実感できた。

●日本らしいソーシャルビジネス

ソーシャルビジネスとは、社会問題をビジネスの手法で解決する、もしくは社会貢献を目的としたビジネスであり、営利を目的とした会社、無報酬のボランティア活動ではできない課題の解決などに取り組むものである。

今後、「技術士のソーシャルビジネス」を創りだしていきたい。

講演2：「幕末維新の動乱と福井藩～坂本龍馬との知られざる関係～」松下 敬一 講師

（株式会社福井銀行舞鶴支店長）



●坂本龍馬と福井・舞鶴の関わり

幕末の時代を福井と舞鶴の視点で話をします。坂本龍馬の海援隊と舞鶴（田辺藩）は当時、唯一商事契約（「海援隊商事秘記」：京都国立博物館所蔵）を結んだ関係である。そういった史実はあまり知られておらず、銀行でのパネル展や地域イベントで紹介し、地域興しに寄与している。

●由利公正について

由利公正は、福井藩主松平春嶽のもと、藩財政を再建した幕末の福井藩士である。文久三年に坂本龍馬が福井を訪れた際に、意気投合し交流を深めた。

実は、私の実家（福井市）付近が由利公正居宅跡であることから、自分が彼について語らなければと強い使命感を持った。

●橋本左内について

近代国家を構想し、維新の源流となった麒麟と呼ばれた若き天才思想家で、15歳で自己を律する「啓発録」を著したことで福井ではよく知られている。

日本の行く末を案ずる先見性のある左内の書簡は多く存在し、その主なものを解説する。左内も竜馬の影響を大きく受けたといわれている。

●龍馬の影響を受けた近代の人々

龍馬や幕末の志士の影響を受けた著名人として、松下幸之助、孫正義、稲森和夫、安倍総理などが挙げられる。

特に、ソフトバンクのブランドロゴは海援隊の旗印がモチーフである。

■交流会

研修会后、ANAクラウンズプラザホテル3F 瑞雲に移動し、講師を交え交流会を開催しました。和やかな雰囲気の中、講演会で足りなかった質疑や議論が交されました。（福井 池田 保裕）



3. 平成 25 年度技術研修会報告

平成25年11月9日（土）、労済会館にて第1回技術研修会が開催されました。富山、石川、福井から1名ずつ、計3名の講師にご講演いただいた。研修会の参加者は69名でした。

講演に先立っての有澤会長からの挨拶では、昨今の食品偽装問題を取り上げられ、「技術士3義務の1つ、信用失墜行為の禁止に抵触する問題であり、我々も技術士として、その役割、使命について今一度再認識すべき」とのお話がありました。

■技術研修会の内容

講演1：東日本大震災復興関連事業に参加して見えたこと

東京コンサルタンツ(株)取締役

今度充之氏（建設・総合技術監理部門／石川）



東日本大震災発生直後のご自身の行動、東北支店（仙台市）を有する会社の動き、さらには建設コンサルタンツ協会の社会貢献活動について紹介された後、JVで受注した三陸沿岸道路のトンネル設計・調査業務について、次のとおり報告があった。

三陸沿岸道路は、三陸自動車道・三陸北縦貫道路・八戸久慈自動車道の総延長約360kmを東日本大震災の復興道路と称して今後7年以内を目標に全線開通しようとするもので、担当した業務は、久慈～普代間のトンネル設計11本、地質調査ボーリング45箇所などである。

通常はトンネル一本ごとに最小断面を設計するが、この事業では設計・施工の合理化のため、トンネルの断面形状を2断面に統一し、簡素化した。また、通常は測量⇒設計⇒用地買収⇒工事着手まで4年程度かかるところを1年で着工するため、ハードスケジュールで業務を遂行した。

この業務を通じて、膨大な業務の集中発注（1年間で149kmの道路設計、127の業務が並行作業）、事業促進のためのPPP手法（public private partnership）の導入など、短期間での復興事業推進に向けた実情、工夫がわかった。一方、生コンクリート等の資材不足、地主不明等で用地買収が進まない、といった課題も見えてきた。

ただ、復興事業の進捗状況は、復興道路・復興支援道路の整備状況は36%完了、復興住宅は1.4%完

了、復興まちづくり（防災集団移転）は2%完了と、道路以外はほとんどこれから工事という状況であり、現実的には「まだまだ先が見えない」ということが見えてきた。

復旧・復興事業の規模は23.5兆円程度であり、人材の絶対量が不足している中、建設業界においては①人材の受入れ・流出防止、②学生を増やす工夫、③労働環境の改善、④人材を守り育てる発注環境が不可欠である。

講演2：安全・安心な社会構築におけるトンネルの維持管理

ジビル調査設計(株)技術部理事

浅井貞一氏（建設部門／福井）



平成24年12月の山梨県中央自動車道笹子トンネル天井板崩落事故は記憶に新しいが、こういったインフラの劣化は重大な社会問題となっており、事前に劣化の状態を診断することは、安全・安心な社会構築に不可欠となっている。

トンネルの維持管理に当っては、図書及び基準に基づいて点検作業が行われる。点検の実施要領は、現在、H25.2月に改訂された総点検実施要領（案）「道路トンネル編」（国土交通省道路局）を使用しているが、ページ数は少なくなり、むしろ旧来の道路トンネル維持便覧（H5.11月、日本道路協会）の方が実態に合っているように思う。

実際の点検では、トンネル本体工の変状現象は、「ひび割れ等」、「うき・剥離」、「漏水」、「変形・移動・沈下」、「つらら・側水・土砂流出」の5つに大別でき、これらの変状が重複して発生するケースが多い。また、施工法や地質の違いによっても変状の場所、度合いに傾向が見られる。

一般的に、定期点検時のポイントとしては、①側壁とアーチの打継目、②アーチ天端、③スパン目地など、トンネル工法上の弱点箇所に変状が発生しやすくなっている点があげられる。特に施工後50年以上経過しているような古いトンネルでは、設計図書も残っていない場合が多いため、アーチ天端、ジョイント部の点検を重点的に行う必要がある。

ゼネコン時代の自身の施工歴の中では、20トンもの異常出水のあった北陸自動車道境トンネル、膨張性地山でのトンネル掘削（R249号中屋トンネル）が印象に残っており、後者については1994年、ITA

カイロ国際トンネル会議で発表も行っている。国際会議に参加して、技法・工法については日本の技術が最も優れているが、吹付はヨーロッパが進んでいると感じた。

講演3：ウォータージェット技術と応用事例

(株)スギノマシン新規事業開発本部商品開発部長
永田幸明氏（機械部門／富山）



(株)スギノマシンは、元々パイプ内部を洗浄する会社「スギノクリーナー」として発足したが、現在は、噴流による洗浄技術として発展したウォータージェット技術を主とした技術サービスを展開している。会社が有する「超高压」、「超小型」、「超仕上げ」、「超精密」、「超高速」の5つの「超」技術のうち、ウォータージェット技術は「超高压」に該当する。

消防車のノズル圧力は10～15kg（1～1.5MPa）であるが、ウォータージェットは洗浄で100Mpa、切断で400Mpa、加圧・成形では600Mpaもの圧力になる。切断にはノズル直近の透明の噴流を利用し、洗浄には拡散した霧状の噴流を使用する。食材や木材など、柔らかいものは水だけで切断できるが、硬いものになれば研磨剤（アブレシブ）を混合させた超高压水を利用する。最近では、水にレーザーを入光させて切断するウォータービームマシンも開発している。

ウォータージェットに用いる超高压発生技術は、1989年に6527mの潜水に成功した潜水船「しんかい6500」の浮力調整に使われる、強力な真空ポンプにも活かされている。

ウォータージェット技術の応用事例には、自動車・機械部品の洗浄やバリ取り、下水管等の管路の洗浄、歩道アスファルトの洗浄など、多様な場面で活用されている。また、土木・建築分野では、コンクリート構造物の補修補強工事において、鉄筋を残したままコンクリートのみを剥離させる技術が活躍している。切断では、熱による影響がない、加工材料を選ばない、厚板加工が可能といったウォータージェット加工の特徴を活かし、工業用から医療用など幅広い場面で活用されている。

2. 交流会

研修会後は、講師を囲んでの交流会が行われ、講演時の質疑で聞けなかった話をするなど、大変有意義な時間を過ごしました。

【交流会の様子】



(福井 辻 隆治)

4. 平成25年度講演会報告

北陸技術士懇談会の第2回技術講演会が、平成26年2月1日（土）、金沢勤労者プラザに会員75名の聴講の下に行われました。

今回は、異常気象が続いていることから気象全般について、そしてもう一件は国産化に取り組む民間航空機産業と人工衛星を運ぶロケット開発の現状と将来展望について講演をしていただきました。

■講演内容

講演1：「気候・天候情報のできるまで～竜巻、台風、確率予報、長期予報、地球温暖化～」

平松 章男 講師

(一般社団法人日本気象予報士会北陸支部長)

①さまざまな気象現象(竜巻、積乱雲、集中豪雨、台風、低気圧等)について

竜巻は空間スケールが100m前後、時間スケールが1時間前後と、他の気象現象に比べて最も小さく、前日予報はできない。新潟から北陸の沿岸部でも多く発生している。

台風とは熱帯の海上で発生する「熱帯低気圧」のうち、北西太平洋あるいは南シナ海に存在し、低気圧域内の最大風速(10分間平均)が17m/s以上のものを指す。台風の強さは最大風速によって「猛烈な」「非常に強い」「強い」等に分類されている。

②数値予報について

○数値予報とは

モデルプログラムを使って予測計算を行う。手順は、大気層を規則正しく並んだ3次元格子網に置き換え、ある時刻における格子点の大気の状態を入力し、大気状態の推移を予測計算する。

○観測

地上気象観測として、全国60ヶ所の気象台・測候所で、気圧、気温、湿度、風向風速等を観測。また、全国に1,300ヶ所ある地域気象観測システム(アメダス)で降水量等を自動観測している。他に気象レーダーによる半径数百km内の観測、ラジオゾンデによる高層気象観測等がある。

○解析

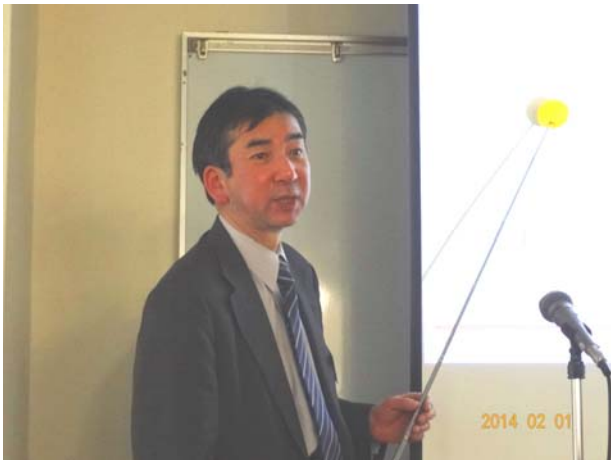
世界中の地上観測、高層観測、衛星観測などのデータを入手し、全ての3次元格子点に、ある時刻の

気温、風、水蒸気量等の大気の状態を与える。

○予測

モデルプログラムには、対象とする地域の規模に応じて大規模な全球モデル(GSM)、中規模のメソモデル(MSM)、小規模の局地モデル(LFM)がある。

【平松先生のご講演】



○誤差等の予測不確定要因

・予報精度を向上させるには、格子間隔と時間間隔を極力小さくすればいいが、計算量が膨大になるため、限界がある→誤差発生

・格子点上にない観測点のデータは、格子点での値に変換する。→誤差発生

これらの誤差は小さくとも時間の経過とともに増大する。→カオス(混沌)

これらの誤差に加えて、大気自身が持つカオス性や、海洋や陸面の観測データ不足等が天候予測の不確定さの要因である。

○精度向上策 <アンサンブル(集団)予報>

わざと、わずかな誤差を与えた初期値から計算した予測値と、真値から計算した予測値とを統計的に処理して信頼性を上げている。

③気候系監視と地球温暖化

・最近30年の各10年間の世界平均地上気温は、1850年(気温測定開始年)以降のどの10年間よりも高温である。

講演2:「航空機宇宙産業の現状と今後のあるべき姿」

小林 実 講師

(三菱エンジニアリング株式会社 代表取締役社長、三菱重工宇宙事業部技術部顧問、工学博士)

①民間航空機産業

○現状

三菱重工は国産初の小型ジェット旅客機 MRJ の研究・開発を進めてきた。米国製の最新鋭ジェットエンジンの採用と、機体に炭素繊維複合材を使って軽量化することにより、燃費性能を約20%向上させる設計である。

しかし、開発工程は計画より遅れている。その原因として次のことが考えられる。

・部品の約70%は海外部品メーカーからの調達である。これらのメーカーは既に市場を支配しているので、MRJに対応させる調整に多くの時間や労力がかかっている。

・旅客機の量産化に必要な「型式証明」を取得する

ためには、本体や部品の設計から製造までのあらゆるプロセスを記録し、その記録文書を国交省や各国の関係省庁に提出し、審査を受けねばならない。この取得基準が非常に厳しく、作業量が膨大になっている。

・1973年にYS11の製造を中止したため、航空機組み立てのノウハウが不足している。

○将来展望

小型旅客機市場はカナダ、ブラジル、ロシア、中国が競合しており、MRJがこの中に加わることになるが、損益分岐点販売機数を受注するのは相当厳しいと予想される。

【小林先生のご講演】



②宇宙輸送系産業

○特徴

ロケット事業とは宅配便と同じで、人工衛星を速く安く目的の所に運ぶことが求められる。

主な分野は静止衛星の打ち上げであるが、年間需要は世界で20機前後である。

現在のH2Aロケットの打ち上げ成功率は約95%である。なぜ100%でないのか。それは安全率が1.25と小さく、冗長設計ができないからである。最初の10機は成功率が80%、次の10機で95%位になる。信頼性向上のために重要なことは、失敗の真の原因追究とそれを公開することである。

○将来展望

次期基幹ロケットH3は2020年の打ち上げを予定しており、打ち上げコストはH2Aの半分程度を目指している。開発費用は約1,900億円の予定。

■交流会

両講師を囲んで和やかな懇親に入り、お互いの近況を語り合い和気藹々のうちに散会となった。



(富山 城石日出人)

5. 平成 25 年度合格祝賀会報告

- 1) 日時：平成 26 年 4 月 5 日（土）
- 2) 場所：金沢 ANA クラウンズプラザホテル
- 3) 参加人数：二次試験新合格者 23 名、同左追加合格者 4 名、一次試験新合格者 7 名
一般技術士 69 名、招待者・事務員 3 名、合計：106 名

【全体風景】



【名刺交換風景】



【二次試験合格者紹介】



【一次試験合格者紹介】



【追加合格者紹介】



【じゃんけんゲーム最終戦】



平成 25 年度北陸 3 県内合格者名簿（官報及び当会で確認できた方のみ掲載）

1) 第二次試験合格者（官報より）★ 当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載）：合格者総数：71 名

県	名前	部門	勤務先	県	名前	部門	勤務先	県	名前	部門	勤務先
	金山真司	機械		石川	館宏樹	建設	北陸電力榑石川支店	富山	中澤 博志	衛生工学	榑日本クリーン
	中島泰司	機械			松村和雄	建設			本庄憲明	衛生工学	
富山	内生蔵裕一	電気電子	北陸電力榑		村上一幸	建設		石川	鈴木啓泰	衛生工学	榑木管工業榑
	中家信博	電気電子			東靖博	建設		石川	岡本大誓	農業	石川県農林水産部
	江幡和徳	電気電子		福井	大槻太郎	建設	榑サンワコン		高田健一郎	農業	
富山	山田省一	電気電子	榑不二越		佐野司行	建設			片山雅雄	農業	
	片山明秀	繊維		福井	田中裕明	建設	榑ピオ		渡辺貴弘	農業	
	日下太一	繊維		富山	古野昌吾	建設	榑新日本コンサルタント	石川	老月重敬	森林	中部地下開発榑
福井	竜田尚希	建設	前田工織榑	福井	高村忠勝	建設	榑熊谷組	石川	水間隆好	情報工学	一
	藤原大佑	建設			高垣浩平	建設		富山	岩木雅史	応用理学	榑アーキジオ
	宮田卓也	建設			北澤健次	建設		福井	森洋市	環境	榑サンワコン
石川	今村一太	建設	中部地質榑	富山	笹原啓	建設	川田工業榑	石川	中山慎一	総監	シブヤマシナリー榑
	藤原雅也	建設		石川	間中弘之	建設	鹿島建設榑	福井	梅田祐一	総監	デルタコンサルタント
	掃部正紘	建設			藤本一行	建設			金山保治	総監	
富山	鷹西輝	建設	榑東洋設計	石川	佐々木伸安	建設	金沢市役所	富山	石丸等	総監	榑としけん
石川	有馬直秀	建設	中日本 HWE 名古屋榑	石川	馬医孝	建設	アイレック技建榑	富山	大門健一	総監	榑新日本コンサルタント
石川	宮口克一	建設	榑ホクコク地水	石川	中野達之	建設	榑日本海コンサルタント		谷口和哉	総監	
富山	金木春男	建設	榑上智	石川	西川正昭	上下水道	榑儀設計		酒井俊雄	総監	
	大丸英博	建設			西原秀幸	上下水道			山崎久義	総監	
福井	平山貴彦	建設	榑サンワコン		黒田俊雅	上下水道			小幡隆浩	総監	
	氏家清彦	建設			坪野泰之	上下水道			酒井淳一	総監	
	石井陽	建設			上羽省司	上下水道			瀬戸太郎	総監	
石川	小寺敏	建設	榑国土開発センター		石倉宙	上下水道					
	古井聖祥	建設		福井	廣都裕彦	上下水道	富二設計コンサルティング榑				

2) 第一次試験合格者（★ 当会に連絡のあった方のみ）：石川試験会場での合格者総数：107 名

県	名前	部門	勤務先	県	名前	部門	勤務先	県	名前	部門	勤務先
石川	高野克博	機械	榑コマツ	福井	小山倫彦	建設		福井	渡邊明	建設	榑帝国コンサルタント
石川	小島遼太郎	電気電子	北陸電話工事榑	石川	垣内広志	建設	アキュテック榑	石川	中村俊治	農業	西北陸土地改良調査管理事務所
富山	宮崎勇人	電気電子	北陸電力榑	石川	小島尚也	建設	鹿島建設榑	石川	川田孝太郎	農業	石川県中能登農林総合事務所
富山	宇野英樹	電気電子	北陸電力榑	富山	延原治也	建設	榑富山設計	富山	園田里見	森林	富山県農林水産総合技術センター
富山	松岡宏倫	繊維	三菱レイヨン榑	福井	新開太郎	建設		石川	酒井繁高	情報工学	三谷産業榑
富山	政二武志	金属	YKK AP榑	富山	橋本大生	建設	北陸電力榑	富山	横江真実	情報工学	日本セック榑
富山	中村崇寛	資源工学	榑環境総合テクノス	富山	中谷勇一	建設	北陸電力榑	石川	松田修平	情報工学	
石川	永野公一	建設		富山	野田勝	建設		富山	清孝雄	情報工学	富山県庁
富山	青木貴志	建設	西日本旅客鉄道榑	石川	村田昭仁	建設	金沢市役所	富山	田代慎太郎	環境	日本環境サービス榑
石川	廣合隆栄	建設	北陸電力榑	富山	小島稔	建設	榑環境総合テクノス	福井	小木曾晴信	環境	福井工業専門学校
石川	村上元	建設	村上設計	石川	南雄大	建設	榑国土開発センター	石川	奥村恭	環境	中部地質榑
石川	北篤志	建設	宝達志水町役場	富山	宮本慎也	建設	北陸電力榑	福井	荒川翔太	原子力	福井工業大学
石川	徳島外志克	建設	榑干場建設	石川	服部克典	建設	五大開発榑				
石川	蒲田倫之	建設	榑アメニテック	石川	桜井彰	建設	珠洲市役所				

6. 平成 25 年度役員名簿

役 職	名 前	県名	部 門		勤 務 先	役 職	
会 長	有澤 良一	富山	建設		(株)アリサワ技術	代表取締役社長	
副会長	橋本 栄治	福井	建設		福井県庁	福井土木事務所長	
副会長	今度 充之	石川	建設	総監	東京コンサルタンツ(株)	取締役北陸統括	
理 事	大深 伸尚	石川	建設		アルスコンサルタンツ(株)	代表取締役社長	
理 事	岡村 興一	石川	機械	総監	岡村技術士事務所	所長	
理 事	岸 竜太郎	福井	建設	総監	(株)Eco&Eco	代表取締役	
理 事	小林 務	富山	機械	総監	ライフ研究所	所長	
理 事	斉藤 茂	石川	建設		中部地質(株)	取締役統括技術部長	
理 事	佐渡 正	富山	建設		館下コンサルタンツ(株)	代表取締役社長	
理 事	城石 日出人	富山	建設	総監	日本海発電(株)	常勤監査役	
理 事	高岡 昌和	福井	農業		丸一調査設計(株)	代表取締役	
理 事	竹内 勝信	富山	建設	総監	(株)アーキジオ	取締役事業部長	
理 事	辰橋 浩二	石川	建設		(株)国土開発センター	環境 1 部主席技師	
理 事	為沢 剛	福井	農業		福井県庁	福井農林総合事務所長	
理 事	辻 隆治	福井	建設	総監	(株)サンワコン	地域計画部長	
理 事	中塚 文和	福井	農業	総監	(株)ニッテックコンサル	取締役副社長	
理 事	森下 正	富山	機械		—	—	
理 事	埴 正浩	石川	建設	総監	(株)日本海コンサルタント	専務取締役	
監 事	加藤 充哉	石川	上下	環境	総監 加藤技術士事務所	所長	
監 事	坂井 正明	福井	上下		環水工房(有)	代表取締役	
監 事	森田 清三	富山	農業		朝日コンサルタンツ(株)	常務取締役	
相談役	津田 直昭	福井	上下	衛生		第一技術開発(株)	顧問営業所長
相談役	屋敷 弘	石川	建設	農業	総監 (株)日本海コンサルタント	常任相談役	
事業委員	池田 保裕	福井	建設	総監	京福コンサルタント(株)	敦賀支店 取締役部長	
事業委員	今成 康忠	石川	農業		(株)環境公害研究センター	常務取締役	
事業委員	佐々井 忍	富山	建設		共和クレーン(有)	代表取締役	
事業委員	田知 清英	富山	応理	総監	北電技術コンサルタント(株)	経営企画部長兼品質保証担当部長	
事業委員	平澤 由佳	石川	農業		(株)国土開発センター	設計事業部設計 3 部担当部長	
事業委員	彗田 照代	福井	環境	建設	農業 (株)北陸環境科学研究所	環境科学部主任研究員	

7. 平成 26 年度行事予定 (案)

開催予定月日	事 業 内 容
平成 26 年 4～6 月	富山・福井にて 技術士試験講習会 (詳細は各県支部にお問い合わせください。)
平成 26 年 5 月 24 日	平成 26 年度総会・特別講演会 (金沢勤労者プラザ)
平成 26 年 7 月 26 日	平成 26 年度第 1 回役員会 (金沢)
平成 26 年 8 月 2, 3 日	技術士第二次試験 (金沢工業大学予定)
平成 26 年 10 月 13 日	技術士第一次試験 (金沢工業大学予定)
平成 26 年 10 月 25 日	技術研修会 (金沢勤労者プラザ)
平成 27 年 2 月 7 日	技術講演会 (金沢勤労者プラザ)
平成 27 年 4 月 4 日	第 2 回役員会、平成 26 年度新技術士合格祝賀会 (ANA クラウンズプラザホテル)

★★ 編集後記 ★★

早いもので平成 26 年もはや 4 ヶ月が過ぎましたが、如何お過ごしでしょうか？

正月以来、技術者 (科学者) の技術者倫理に関する大きな事件が立て続けに発生しており、改めて技術士倫理綱領を熟読し、綱領を遵守していくことの重大性を思い知らされています。

このたび、総務委員会 (仮称) が会報の企画、編集を担当することになり、年 1 回以上の発行を目標に会員の皆様方に配信していく予定です。会報の企画、編集方針は、定期総会、技術研修会、技術講習会などの講義内容の報告をはじめ技術士合格祝賀会の懇談状況などを掲載する予定にしております。

今後は、会員の皆様方のご支援を頂きながら「懇親会会報」が愛読され、息長く続けていけますよう努力を重ねていく所存です。

北陸技術士懇談会HP : <http://www.hokugikon.org/> 過去の行事資料や写真が掲載されています。